



通信

No. 59

2016年 秋号

発行：子育てサポートくるみ

住所：羽曳野市壺井 508-1

TEL：072-957-3282

FAX：072-958-4089

HP： <http://kosodate-kurumi.com>

関わりあいの中で育つこと

現在くるみの学童に在籍している子どもは32名。夏休みの期間中くるみでは、園児・学童合わせて100名近くの子どもが生活します。

夏の保育目標は0歳児から学童まで、どの年齢も「水でたっぷり遊ぶ」です。そのため今年も、園庭に、それぞれの年齢の子ども達を楽しめるように、深さ・広さが異なるプールを4つ作りしました。そして各年齢にそった目標があります。例えば、1歳児は顔に水がかかっても平気、2歳児は顔を水につけられる…などです。楽しく遊ぶ中で目標を達成すると、それが自信になり、どの子もひとまわりたくましくなります。

学童は近隣の学校のプールを借り、保護者にも協力をお願いして、プール教室を行います。低学年の時期に、余分な力を抜いて、楽にプールを何往復でもできる泳ぎを身につけると、泳ぐことがとても楽しくなります。高学年になると、その力を土台にしてクロールや平泳ぎなどをマスターします。学童は夏の活動の中で、川や海へ行きます。保育園の時期から培った水に対する慣れとプール教室などで泳ぐ力がつくことで、川や海でダイナミックに遊ぶことができます。

また、学童の活動の1つに「平和について考える」があります。5・6年生は沖縄と広島を隔年に訪れ、現地で「見る・話を聞く」ことを大切にしています。以前は2年に一度の沖縄だけでしたが、5年前から広島の「似島」での学びも始めました。現地の方々には「知ったこと、見たことを(周りの人に)伝えてほしい」とお話されます。くるみでは、まず4年生以下の学童の子どもたちに伝えたいので、参加した大人たちと一緒に紙芝居や壁新聞などを作りました。今年度は更に在園の親にも伝えたいと、子ども達が学んだこと・感想などを載せた冊子を製作中です。

学童の取り組みにも保護者の協力が欠かせません。川や海、山への付き添い、平和学習の旅などに保護者も積極的に参加して、子ども・保育士と共にたくさんの経験を一緒に積んでいます。また、懇談会等で、子どもの様子だけでなく、何を大事にしているのかを話し合います。その積み重ねで、保護者と保育士が子どものことを同じ目線で見守り、対応していくことができるのだと考えます。そのような活動を通じて我が子や他の子の成長を見つめたり、そして困ったときには相談できたりと、助け合える保護者の「大人集団」ができていきます。時には、意見が合わず、話し合いを繰り返しながら解決していく中で、本当の信頼関係も育ちます。この信頼関係の中でたくさんの体験ができることは学童期の子どもにとって、とても貴重だと感じます。子ども達は、多様な他者との経験の中で、色々な考えがあることを知り、葛藤しながら成長していきます。この力が思春期を支え、“人と関わり生きること” “自分らしく生きること”へ繋がると考えます。

園長 山田 房江

学童の夏

学童に関わって3年が経ちました。思い返せば今の5・6年生は、僕がくるみに来て初めて関わった子どもたちです。年月が経つのは早いと感じます。

学童の夏は、1日くるみで生活します。学童の夏も『水』が大事で「川遊び」や「プール教室」などの活動をしています。川遊びでは、泳ぐ、飛び込みに挑戦する、魚・エビ捕りをして思い切り川で遊びます。同じ川遊びでも『くりのみ川交流』では、1年ぶりに再会する仲間と川遊びや協力して食事作りをします。違う環境でいつもとは違う仲間の刺激を受けながら生活をします。その中で子どもたちは、当たり前のように泳いだり、飛び込んだりしていますが、0歳児からの『水遊び』の体験が学童期の子どもの力になっていると改めて実感します。

毎週、月曜日は弁当作りで必ず1品自分で作ってきます。そして、金曜日は食事作りの日として取り組んでいます。低学年は、1品か2品が精一杯ですが高学年になると全て自分で作る子どもも出てきます。食事作りでは、班で作ったり学年で分かれて作ったりとその時のメニューによって変えていきます。年々積み重ねて、火の起こし方や食事作りの進め方など力をつけていると感じます。安心して見ていられます。それは、園外のくりのみ川交流でも感じたことです。

今年は、初めて広島平和学習に付き添いました。5.6年生の子どもたちが広島に行って「戦争」という事をどのように感じて帰ってくるのか楽しみな反面、僕自身子どもに何を伝えられるだろうか？と心配でした。その心配も広島に着くとなくなりました。「原爆資料館」で実際の人の焼け跡や髪の毛、爪痕など、本当に目をそらしたくなるものを真っすぐ見たり、平和ガイドの先生や被爆者の話を聞いてメモを取っている姿を見て僕の役割は、子どもが感じたものを一緒に共感することだと思いました。本当に暑くて1泊2日とハードなスケジュールでしたが、それぞれ何かを感じて帰ってきたと思います。これから子どもたちとまとめて、「戦争」は恐いだけではなく、どういう事なのかを一緒に学んでいけたらと思います。

夏休みには、「すさみ川キャンプ」「プール教室」「広島平和学習」「くりのみ川交流」「食事作り」と活動がたくさんあります。子どもたちは、その中で仲間の刺激をもらい1つ大きくなります。毎年、夏休みはあっという間に過ぎてしましますが子どもたちのいろんなことを吸収する力・それを発揮する力が素晴らしいです。その力が合わさり、困難を仲間と一緒に乗り越えられる力をつけていると感じる学童の夏です。

保育士 橋本 康次郎



[原爆の子の像の前で]

保護者の声

○ 2016 広島平和学習に参加して (生駒 めぐみ)

くるみの5・6年の学童は夏休みに沖縄と広島を交互で2年ごとにを訪れますが、広島はいつも8/4、5を訪れます。原爆投下の前日8/5に「原水爆禁止似島少年少女のつどい」に参加するためです。そのため、平和記念公園は平和記念式典(広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式)の準備がなされ、たくさんのテントや椅子が並べられています。私は2年前に6年の長男と参加、今年は5年の長女たちの付添として2回目の参加でした。今回は大人5人子ども10人の大所帯で、かしまし5・6年女子たちと、あの(?)5年男子たちとの小旅行(もちろん学習がメインですが)、参加も2回目ということで不安なく楽しみにしていました。

4日の午前は広島平和記念資料館を見学しました。大人1人子ども2人で分かれて見学しました。資料館は、老朽化と戦争体験のない世代が多くなっているため、2014年の秋よりリニューアル工事中で、残念ながら見学できる部分は前回よりも少なくなっていました。今年5月にオバマ大統領の広島への歴史的訪問があり、核兵器の廃絶が訴えられました。今回は2年前には見ることができなかったオバマ大統領自作の折り鶴を見ることができました。何となくは覚えていましたが新しく知る事実、衝撃を受けた展示が多々ありました。子どもたちは思っていたよりもとても熱心に見学していました。ここの写真を撮っておいてくれと頼まれたり、持参したメモ帳にたくさんメモを書いていた。昼食を食べた会議室の近くには、近年寄贈された戦争に関する資料・品物が展示されており、展示物は今後も増え続けるようでした。再度行くと改めて、原爆の恐ろしさがよく分かります。そして、色々と考えさせられます。戦争はいけない、核はよくないものだと頭ではよく分かっているけれど、視覚からいけないものなのだと理解させてくれます。行かれたことがある方はもう一度、ない方は是非一度足を運んでいただきたいと思う資料館です。

午後からは元中学教員の脇田先生に原爆死没者慰霊碑をはじめとする平和記念公園内のいくつかの碑や、被爆当時の姿を残した呉服店の地下倉庫(現在は平和記念公園レストハウス)、少し離れた爆心地、そこからそう遠く離れない所にあった原爆投下の目標地 相生橋(全国的にも珍しいT字型の橋で空から目標にしやすかった)、原爆ドームなどを案内していただきました。先生は大きな四つ切画用紙ぐらいのファイルを持っておられ当時の写真・資料を見せながら案内下さいました。大人もへばるような暑さの中、子どもたちは熱心に聞いていました。

娘が広島に行ったら絶対に見たい!と言っていた像も見ました。「原爆の子の像」です。この像にはたくさんの千羽鶴や、折り鶴で作られた平和を祈るパネルなどが捧げられています。モデルは佐々木禎子さん、2歳で被爆、昭和29年の冬に白血病を発症し次の冬を待たずに亡くなった12歳の少女です。私は2年前に絵本「おりづるの旅」と禎子さんのお兄さんが書いた本「禎子の千羽鶴」をおみやげに買って家の本棚に入れておきました。娘は絵本を読んだ後、鶴を折ってみたり、「禎子の千羽鶴」(長男が読むといいなと思い買った)も一気に読んでいました。朝ドラの影響もあったとは思いますが、折りに触れ戦争のことやその時代のことを聞いてきたりして、平和学習にはとても興味がある様子でした。禎子さんは病床でお見舞いにももらった一ふさの折り鶴をきっかけに、きれいな紙や薬の包み紙を切り揃えて鶴を折り続けたそうです。実際に貞子さんが折った鶴が資料館にも展示されていました。大小様々で、針で折った小さな小さな折り鶴を見たときは、胸にグッときました。「原爆の子の像」は禎子さんが亡くなった後、同級生の子どもたちが募金を集めてできた像です。娘が興味深げに像を見て鐘を鳴らしているのを見たときは、

親子で来て見ることが出来て本当によかったなと思いました。

今回初めて見た「原爆犠牲 ヒロシマの碑」は、昭和 56 年高校生たちが、瓦の発掘と平和への決意を固める碑の建設を呼びかけたそうです。戦争も原爆も知らない世代が中心となって作りあげたこの碑には、彼らの努力の結晶である「原爆瓦」がはめこまれています。今でも原爆瓦や亡くなった方の骨が元安川には眠っているとのことでした。私達が訪れた日には広島駅や平和記念公園内、相生橋の上で平和への署名活動をお願いしている制服姿の学生さんがたくさんいました。こうやって広島では今も若者たちが平和のために活動していること、本当に素晴らしいと思いました。

5 日は、「第 42 回似島少年少女のつどい」に参加しました。似島は広島港の沖合 4km の牡蠣の養殖が盛んな美しい島です。2 年前の参加で初めてこの島のことを知りました。日清戦争のころから広島はアジア大陸への出征兵士・輸送物資の玄関口となりました。似島には検疫所や捕虜収容所など軍の施設がたくさんあり、兵士たちは検疫を受けてから全国各地に帰っていったそうです。第二次世界大戦の終り、日本が敗退を重ねるようになると戻ってくる兵士も少なくなり検疫所は機能を停止、臨時野戦病院に指定されました。広島に空襲があった場合、軍関係の負傷者は似島へ輸送し収容することが計画されていました。原爆投下後は 1 万人もの被爆者が運ばれ、満足な治療も受けられないまま命を引き取りました。

つどいには 100 人余り参加、グループに分かれ、弾薬庫を囲む土塁、弾薬庫跡、見張りをする歩哨塔、トロッコのトンネル・レール跡を見学しました。弾薬庫はコンクリート製で、爆発しても大丈夫のように下の穴から腕を通して届かないくらい分厚いものだったそうです。弾薬は学徒が栈橋から弾薬庫までトロッコを使って運び、ぶついたり落としたりすると爆発してしまうためとても気を遣う大変危険な作業だったそうです。歩哨塔では、24 時間交代で見張りをしていました。2 年前は曇り空で雨もちらついたりしていましたが、今年はカンカン照りでとても暑く途中ジャングルのような所もあり戦時中はさぞ大変であっただろうと容易に想像できました。

当時野戦病院があった跡地に、診療の地に碑が建てられています。代表の女の子が献花し、みんなで黙とうを捧げました。原爆の後にはたくさんの方が運ばれてきて 5000 人分の医療品はたった 3 日で無くなり、治療しても治療しても運ばれてくる人はあとを絶たず、手術室で切断された腐った手足を片づけることもできず、窓から投げられて窓の高さまでうす高く積まれていたと聞きました。本当にむごいひどい話です。

軍は馬をととても大事にしたそうです。その軍用馬の検疫所や病気の馬を火葬するための焼却炉もありました。この焼却炉が、被爆当時似島で亡くなった人々の火葬にも使われました。ガイドさんによると、ずっと煙が出ていなかったのに原爆の後には煙が上がっていたなどの証言があったにも関わらず国は馬匹焼却炉で人は焼いていないとみとめていなかったそうです。1990 年発掘作業が行われ虫歯の治療のあとが見つかり、被爆者が火葬されたことが確認されたそうです。発掘された焼却炉の一部は臨海公園内に移設されましたが野ざらして管理上の問題があると言われています。屋根をつけてさせてくれない、他にも国は戦争の跡(弾薬庫も老朽化を理由に 2001 年に取り壊されたそうです。)を無くそうとしている、当時発掘に参加されていたガイドの先生が熱く語ってくれました。「どんどん無くなって何にもない島なんです」とおっしゃっていたのが印象的でした。

似島小学校の体育館で昼弁当を食べた後、広島教職員のスタッフが作られたスライドと音楽に合わせて、被爆体験談、似島の壮絶な体験談を朗読してくださいました。80 代の被爆体験された男性が質問に答えてくださいました。質問された方は長崎の少年少女のつどいにも参加されて

いる女性でした。今回は参加者が、どこからどんな思いでつどいに参加しているのかなどを聞くことが出来ましたが今回は時間の関係上、他のグループと意見交換ができず残念でした。最後子どもたちは体育館まではピリッとした表情でしたが帰りの棧橋までの道はリラックスした感じで歩いていました。

今回は帰ってから大人もまとめをするということで私は似島の部分を担当しました。2回訪問しましたが、やっぱりそれだけでは色々忘れていて、まとめのおかげで似島の方がより深く理解できました。体育館でスタッフのギター伴奏でみんなで歌を歌いました。「にのしま」という曲で、第一回のつどいに参加した広島市内の中学生の詩に曲をつけられたものだそうです。初めは明るく2番3番は少し変調し最後にまた明るくなる歌です。頭に残る歌で私も家に帰って娘と2人で「30年前の～♪のところ70年前に変えなあかんなあ」と言いながら歌っていました。丸谷に聞くと娘たちはくりのみ合宿の行きの中ですっと歌っていたそうです。娘は帰ってすぐに「広島にまた行きたい。」と言いました。だって碑とか全部見てないから。熱いうちにすぐ行くべきか資料館がリニューアルしてから行くべきか迷っています。私がこの原稿をウンウン唸りながら書いている横で娘はいきなり「ちちをかえせ、ははをかえせ…」と峠三吉さんの詩を唱え始めました。しかも最後まで全部。「ゆいとひまやからおぼえてん。」ほぼ女の子全員学童と一緒に唱えていたようです。夏休みの宿題もまだ全部終わってないのに～とは思いましたが、子供たちの中に確かに何かを残すことができたと感じました。

私は入園説明を受けたときに初めて平和学習のことを聞き、是非わが子に参加させたい、と魅力を感じました。なかなか学童を最後まで続けるのは難しい家庭もあるけれど、事情が許すなら平和学習に親子で参加することをぜひおすすめします。広島は大人がとても勉強になりとても楽しかったです。沖縄は私はまだ行ったことがないのでさらに楽しみにしています。

○広島平和学習に参加して（下倉 淳史）

僕はこれまで広島に行ったことがなく、原爆の記憶といえば「広島のパカ」という絵本と「はだしのゲン」。どちらもとても印象的な内容でしたが、関東出身者にとって広島はとても遠く、自分がこれまでに知っていたことはあまり現実感の無いものだったんだな、と改めて感じました。子ども達にとっては難しい内容も多かったと思いますが、それでも見て、聴いて感じた事は、きっと胸の中に残るだろうと思います。戦争の記憶は時間の経過とともに薄れていくと思いますし、僕自身が小学生だった頃に比べ、戦争の気配はむしろ現実感を帯びてきているように感じます。子供達はどうか今回学んだものを大事に、繰り返さないための努力を繋いでほしいと思います。

○広島平和学習に参加して（濱口 玲）

私はこれまで一度も広島を訪れたことがなく、恥ずかしながら広島や原爆のことについて教科書で学ぶ以上のことは何も知らずにいました。特に、平和記念資料館については、怖くて当時の写真などを直視できないのではないかという思いがあり、これまで行くことを避けていた、というか敢えて目を向けてこなかったというのが正直な所です。でも、自分が親となり、いつか一度

は見ておかなければとも思っていました。ですので、親子で学べるこの学童の平和学習はとても良い機会であると感じ参加しました。

行く前に、今回の平和学習に参加する5・6年生に向けて、戦争体験者の方のお話しをお聞きする事前学習が行われたので、そちらにも参加させてもらいましたが、それ以上に自分で資料を集めて読んだりするなどの学習をせずに広島に向かってしまったので、せっかく行くのに勉強不足のまま来てしまったなと思ったのですが、今回は本当に子どもたちと同じような目線で広島を知ることができたように思います。

1日目、広島についてすぐに平和記念資料館に向かいました。最寄りの駅を降りるとすぐ原爆ドームが見えてきます。さらに資料館へと平和記念公園内を歩くと、二日後に行われる平和記念式典のために準備が進められています。これまで何度もテレビで見た場所です。そこに立つだけで、「遠い場所」でのことから一気に現実的な感触に変わりました。その感触は、資料館を見学し、その後ガイドの脇田先生に案内していただきながら碑めぐりをし、2日目に似島に行き、様々なことを知るにつれ生々しく迫ってきました。「本当にこんな恐ろしい現実があったんだ…」当たり前のことですが、実際に広島に行つての一番の感想はそんな思いです。でも、教科書でただ知っているのと、実際に行ったのではその当たり前が全く違うということが分かりました。

2日目の似島では、広島の教員の方々がやっている「似島少年少女のつどい」に参加しました。似島はとても美しい島ですが、戦争を支えた施設が多くあり、原爆投下後は被爆した人々がたくさん運び込まれ無念の死を遂げた場所でもあり、戦争と深く関わってきた歴史があります。「似島少年少女のつどい」は、この場所で、その事実を子ども達に伝え続け、学びの場として40年以上も行われています。その内容はもちろん、このような活動を続け、私たちに戦争のこと、原爆のことを伝えて下さるありがたさを感じました。事実を知ることによって、戦争の被害にあった人々の苦しみや無念さに思いを馳せることができるし、そこから平和への願いも生まれてくると思うからです。

2日間を通して、子どもたちはこちらがビックリするくらい良く話を聞き、見学していました。きっと10歳を超えた今だからこそ、ここまでしっかりと聞くことができたのだろうと思い、それぞれの時期に適した学びがあるのだなと分かりました。ただ、感じたことを言葉にすることはまだまだ難しいようで感想文も苦労していますが、彼らなりに胸の中に響いたことがあったのではないかと思います。この体験をこれからも大切にしていってもらえたらと願っています。これで平和学習を終わりにするのではなく、親子とも関心を持ち続け、来年の沖縄にも繋げていきたいと思います。



[原爆資料館にて]



[平和の鐘とともに]

子どもたちから

くろみ通信で子どもの文章を載せるのは初めてとなります。この夏、5・6年生の子ども達が、広島へ平和学習に行きました。今回は6年生4人の感想を紹介します。誤字・脱字等、少しの手直しは加えましたが、それ以外は、子ども達のそのままの感想文です。

〇わたしは、広島でいろんな事を学びました。まず1つめ、戦後70年もたっているのに、まだ悲しみが残っていました。戦争にあった人々の心の傷は、けっしてなおらないんだと学びました。あと、みんなは戦後も70年たつとみんな考え方がかわっていると思いました。なぜかという、たぶん戦争が終わった時みんな、アメリカを憎んだと思います。でも、いまは、みんな考え方がかわり、「世界から核兵器を消そう」という願いでした。わたしは、みんな、「アメリカに復讐をしよう」というのかと思ったけどみんな少しずつ変わるんだと思いました。

〇わたしは、広島に行って戦争のことを学びました。戦争にあった人は、ほとんどいなくなっているけど、最近まで生きていた人や、戦争が終わって何十年もたって亡くなった人も、死ぬまで、核兵器をなくしてほしいと思っていただんだなって思いました。世界には、まだ核兵器があるけれど、被爆者のためにも、核兵器をなくしてほしいです。遠くにいても、熱風がくるから、それで窓ガラスが割れてその破片が体に刺さったり、そんな事を考えると、どこに逃げればいいのかからなくなりました。平和ガイドの脇田さんが、原爆ドームを取り壊すか取り壊さないかで昔こんなことがあったといていたけど、わたしは、残って正解だと思いました。残しておく、被爆者がこんな苦しかったということを知ってほしいからです。わたしは、アメリカの人に恨みをもっていると思っていただけど、5日にオバマ大統領が来たとき被爆者の方が、オバマ大統領と抱き合っているのを見て、恨みをもっていないなって思いました。放射線による被害についても知りました。正直放射線のことは、全然わからなかったけど、細胞を壊すと、吐き気や発熱、出血、下痢、脱毛、全身のけだるさなどさまざまな症状が出ると聞きました。この症状が一気にきたらわたしはたえられないのに、被爆者はこんな症状に苦しめられながら、死んでいったと思うとかわいそうになりました。

とくに印象に残ったのが、佐々木貞子さんです。2歳で被爆して10年間は何ともなかったのに12歳で、白血病になって入院から約8ヶ月で亡くなりました。病院で薬の入っていた袋で、鶴を折ったりしていました。貞子さんは、病気が治ると思って鶴を折っていたので、治ってほしかったです。外国の人も、鶴を折ることができるので、世界中の人が鶴を折ってほしいです。世界から核兵器をなくしてほしいです。

〇8月4日に私は、4時に起きてねむかったです。新幹線で友達と寝ていました。その後、路面電車でも寝ていました。すっきりしました。あつというまに「原爆ドーム前」に着きました。そこで原爆ドームを見ました。71年前の8月6日の朝8時15分原子爆弾が広島に落ちたと思うと、鳥肌が立ちました。あと私は、学校で「CTT」をしていたのでほとんどのことを知っていたけれど、実物は全然ちがいました。びっくりしました!!私たちのグループは3人でした。とりあえず中に入りました。中には人がたくさんいました。その中で特にびっくりしたり、こわかったのは白血病で亡くなった佐々木貞子さんと背中に着物の柄が焼きついてしまった女性です。資

料館を出てくる前に私は、戦争をなくそう！っていう感じになり、核廃絶の署名をしてきました。下に降りるとまだみんなきていなかったの、また、入場しました。結局みんないたのでその後またおりました。アイスを買ってもらって食べた後、ガイドの脇田さんに平和公園を案内してもらいました。印象に残ったのは峠三吉さんの「父をかえせ母をかえせ」です。あの時代に戦争を反対したりするのはとても勇気がいることだと本で読みました。だからすごいと思いました。夕食は「野のぶどう」というところで食べました。人はそれなりにいました。バイキングは話に聞いていたけれど想像以上においしかったです。泊るところはマンションみたいでほかの住民も住んでいました。部屋は3部屋、1つはリビング、2つめはベッドルーム&バスルームで、3つめはベッドルームでした。こっちも想像以上でとても大きくてきれいかったです。部屋でトランプなどをしました。楽しかったです。2日目は船で似島に行きました。私たちは「少年少女平和のつどい」に参加しました。私達はくるみの人達とまわりました。私たちは、弾薬庫跡や昔でいう物見屋倉みたいなものもありました。トロッコで運んだ後はうっすら残っているのになぜ国はこういう所を壊していくんだらうなあとという会話をしていました。その後、広島先生達「広島先生達」という動画を見せてくださったり、被爆者の方が8月6日あった自分の体験談を話してくださいました。とてもひどいことがあったんだなあと思いました。先生達の劇は、現実味があってこわかったし、胸がしめつけられました。帰る時に「カンパン」という食べ物をいただきました。パサパサしたビスケットみたいでした。戦時中(戦後)もこんなものを食べていたと思うとおいしいものをいっぱい食べれる(無理な人もいるけど)時代に生まれた私達は幸せだなあと思いました。

〇8月4日(木)に、自分は朝4時に起きて、朝と昼ごはんの準備をしました。ご飯の用意が手間どって、5時集合なのに、5時過ぎに着きました。そこから新大阪まで車で行って、新幹線に乗りました。広島駅に着きました。路面電車に乗って原爆ドーム前に行きました。原爆ドームは骨組みや鉄骨だけで少し怖かったです。その後、平和資料館に行きました。最初にきのご雲を見ました。想像以上に大きくて驚きました。体が溶けている人の模型を見た時、痛そうだなと感じました。そのあと、戦争に関する所を回りました。平和の石碑や原爆の子の像の所などに行きました。原爆が落ちた所にも行きました。今は全く跡がありませんが、当時はすごい有様だったとおもいます。帰りに食べに行きました。バイキングでたくさん食べて、少し太りましたがおいしかったです。そこからホテルまで歩いて消費しました。行ったホテルは想像以上にキレイで大きくてびっくりしました。おフロは大きくて3人で入りました。寝る時は、ベッドを2人で1つ使ってそれでも大きいぐらいでした。朝、片付けをして、朝ご飯を食べに行きました。自分はオムレツとご飯のセットを頼みました。おいしかったです。そのあと、フェリーに乗って似島に行きました。爆薬庫の跡や、見張りの場所などを見た後、昼ご飯を食べました。食べた所で戦争のことをおじいちゃんに聞きました。戦争のことを知っている人に聞くと、あらためて、戦争の悲惨さを実感しました。フェリーで帰って、路面電車に乗ったあと新幹線に乗り、車で羽曳野に帰りました。この学習に行って分かったことは、「戦争はどの人にも悲しみしか与えない」ということでした。